

日ごろ山形県立産業技術短期大学校庄内校には、多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。本学のこの一年の研究成果と事業報告をまとめた『紀要』第 21 号の発刊に寄せて、一言ごあいさつ申し上げます。

さて、我が国では少子高齢化に伴う人口減少がとどまるところを知らず、大きな社会課題となって久しいものがあります。これに伴い 15 歳から 64 歳までのいわゆる生産年齢人口も減少の一途をたどり、2050 年には、現在のおよそ 3 割減の 5,275 万人になることが予測されています。仮に一人当たりの生産力が現在のままであれば、国力が維持できないばかりか、私たちの生活水準も現状を保つことはできないでしょう。少なくとも一人当たり 1 点何倍かの生産力の向上が望まれます。ところが現状では、時間当たりの労働生産性を見る限り、我が国は OECD 加盟国中、真ん中より下の順位です。

このような状況で、鍵となる技術の一つがデジタルであることに異論はないでしょう。デジタルを使えば、省力化、効率化が進み生産性が向上する上、人と違って間違いをしないので、仕事の信頼性も高まります。今や産業界における DX は待ったなしの状況と言わざるを得ません。

一方、単に生産性を向上するだけでなく、これからの持続可能な社会を形成するためには、環境保全や脱炭素という視点も欠かせません。地域の産業界を支え、幸福（Well-Being）を実感できる住みよい社会づくりに貢献できる技術者の育成ということが、これまで以上に日ごろの教育・訓練に求められていることを実感します。そのため、本学の研究や授業においても、デジタルとグリーンは学科を問わず、どの分野においても重要なキーワードとなっており、特に力を入れているところです。

2 年前、生成 AI が一般に用いられるようになってからは、社会の変化のスピードが一層加速してきたように思います。この流れに追従し機敏に対応していくことは、私たちにとって避けようのない現実といえます。しかし、AI とて所詮人間が生み出した技術の一つに過ぎません。泰然とした対局的見地から物事を見つめ、先端技術を産業界のさらなる進展や人の幸福（Well-Being）のために駆使できる技術者の育成が急務と思われます。逆説的ですが、そのためにはむしろ基礎的・基本的知識や技術の習得がむしろ重要性を増している時代でもあります。私たちの目指す、「実践的技術者」の「実践的」の部分には、このような諸々のことが含まれるのだらうと思う昨今です。

地域に愛され、産業界からの期待を受けて、本学は開校以来 28 年の歴史を重ねてまいりました。お陰様で、輩出した卒業生も 1,000 人を超え、そのおよそ 7 割が地元庄内で活躍しております。この歩みを一層たくましいものとするために、この『紀要』を一人でも多くの人たちの手にお取りいただき、建設的なご意見やご助言をお寄せいただければ幸いです。